

## 2012 津軽の食と産業まつり

145件の事業所・団体が出展



「2012津軽の食と産業まつり」が10月12日から14日までの3日間、弘前運動公園内の克雪トレーニングセンターと屋外のエントランス広場において開催されました。

今回は145件の事業所・団体に出演して頂きました。前回も大好評だった巨大アップルパイ実演販売やJAPANブランドコーナー、友好都市の斜里町・太田市の物産販売コーナー、函館・下関との交流を目的としたブースもあり、行列ができるなどたくさんの方で賑わいました。

イベントは、保育園児の演奏・演技、小学生・高校生のブラスバンド演奏、そば打ち・和菓子作り体験、バルーンパフォーマンス等の他、弘前りんご博覧会の関連事業として、「林檎づくしの和菓子茶屋」を実施致しました。去年まで実施していた「アップルパイ食べくらべカフェ」の和菓子版というところですが、若い年齢層の方には受けが悪かったようで、担当の舟木さんには大変ご苦勞をお掛けしました。

また青年部として未来の商人創造委員会（高橋哲史委員長）のキッズカンパニーとビジネス推進委員会（小田桐誠委員長）のB級グルメチャレンジにも出展して頂き、まつりを盛り上げていただきました。

今回で実行委員長としては最後となりましたが、春に実行委員会が立ち上ってから毎週のように会議を重ね、準備をしていただいた委員会メンバー、会期中お手伝いいただいたYEGメンバー、市役所・会議所職員の皆様に支えられ無事にまつりを終了することが出来ました。本当にありがとうございました。

津軽の食と産業まつり実行委員会委員長 小林 裕之



# 〈月例会報告〉

## 10月例会

10月の例会は、弘前市役所の職員10名様との交流事業を行いました。

1テーブルを8～9人のグループ編成にして全部で6つのテーブルで意見交換を行いました。

第1部では、まず弘前市役所職員の方の仕事内容をお聞きし、それに対する質疑応答が行われました。

第2部では、フリーテーマで自分が気になっていることを発表し、それに対しての意見交換などを行いました。少子高齢化問題、健康づくり、除排雪、商店街の活性化、雇用、エネルギー、教育、農業の問題について、様々なテーマで意見交換が行われました。

普段あまり交流する機会の少ない弘前市役所職員の方々と我々弘前YEGメンバーが積極的に意見交換を行った結果、今後定期的に情報交換等を行い、弘前市の発展の為に協力していくことが必要だと感じました。

地域連携委員会委員長 帯川 登之

## 11月例会

11月例会は弘前商工会議所青年部のメンバーであるたゆみ社会保険労務士事務所 所長の菊池励美様を講師でお招きして『今夜、あなたの知らない自分

を発見しちゃうかも?』と題して講師例会を開催いたしました。

キャリア・アンカー(どうしても犠牲にしたい・譲れない価値観。本当の自己を象徴する能力・動機・価値観)の診断をセルフチェックし、グループ毎にワークショップ形式で自己分析をして自分を見つめ直すことをしました。

今回のような考える時間を作った例会の開催は少ないので大変良い機会となりました。この内容を各々の会社に持ち帰ることで、組織構築や人材育成に大きく役立ったのではないのでしょうか。たゆみさん、貴重な資料・ご講話ありがとうございました。

会員研修委員会委員長 漆澤 知昭



## 12月例会

毎年恒例のクリスマス例会。

今年は地域振興委員会、地域連携委員会、ビジョン推進委員会の皆様の合同でのアトラクションでは幻のユニットも登場し、会場をおおいに沸かせました。



ビンゴ大会では数多くの方々から協賛を頂き、そのおかげで豪華賞品が登場し、昨年よりもおおいに盛り上がりました。ありがとうございます。

また、当日は61人のご参加を頂き、ありがとうございました。

YEG活性化委員会委員長 菊池 孝顕

## 1月例会

1月例会は東京のコンサルタント会社、山田ビジネスコンサルティング(株) シニアコンサルタント小野塚勇様を講師でお招きし、『不況時代を乗り切るために』と題して講師例会を開催いたしました。

金融機関の仕組みや考え方や事業計画の作成方法をわかりやすくレジュメにまとめていただき事例も交えながら講演していただきました。自社の現状分析、将来像についてグランドデザインを行うことの重要性を再認識する機会となったのではないのでしょうか。

小野塚様は津軽地区も担当しており、貴重な時間の中で委員会にも数回出席してくださり打ち合わせを重ねることができました。小野塚様、素晴らしい資料とご講話ありがとうございました。



会員研修委員会委員長 漆澤 知昭

## 2月例会

2月14日バレンタインデーにも関わらず44名もの出席者の中、開催された2月例会では我々2つの委員会がこの2年間で総括しながらキッズ☆カンパ

ニーと高校生ビジネスプランコンテストの事業活動をパワーポイントにて報告しました。

小学生や高校生のような青少年を将来の商人として育成していく事も重要ではありましたが、若手後継者育成事業として我々青年部メンバーの育成という一面もありました。「どのようにすれば子供たちが頑張っていけるのか?我々が手伝いすぎると、結局は我々の作品になってしまうのではないか?」など議論をぶつけ合い事業を成功に導いていく事がとても勉強になりました。

2年間ご協力頂いた皆様本当にありがとうございました。



明日の商人創造委員会委員長 島川 聖栄  
未来の商人創造委員会委員長 高橋 哲史

## オリジナルグルメコンテスト ひろさきグルメ ★スター誕生!

グランプリに「清水森ナンバのグリーンシチュー、



入賞者の方々

「ひろさきグルメ☆スター誕生!」とは、毎年、さくらまつり・ねぷたまつり期間以外は観光客が少ない弘前…そこで「弘前に行ったら〇〇を食べたい」と思うようなオリジナルグルメがあれば、弘前にもっとたくさんの方が訪れてくれるのではと考え、個人の方からレシピを募集し、弘前のオリジナルグルメを誕生させるコンテストを企画し、津軽の食と産業まつり実行委員会が担当し開催致しました。

実行委員会が編成された5月より準備を始めましたが、このようなコンテストを開催するのは初めてということもあり、かなり手間取りながらも、何とか8月には募集を開始することが出来ました。

9月10日に書類審査を実施、応募作品の中より10作品を選出し、9月22日に東北栄養専門学校において、料理のプロの方にも参加して頂き実食審査を実施、10作品の中から5作品を選出致しました。この5作品で10月13日「津軽の食と産業まつり」の会場において、市長をはじめとしたゲスト審査員に加え、一般の来場者の方々にも参加して頂き、最終実食審査を実施した結果、グランプリに「清水森ナンバのグリーンシチュー」、準グランプリは「鶏の手羽元と香味野菜のシードル煮・弘前風」、「新☆いがめんちサンド」に決定いたしました。

審査終了後会場にて表彰式を行い、その後、市内の飲食店にレシピを配布してお店の方で提供して頂けるようお願いいたしました。この事業により少しでも多くの観光客の方々が弘前を訪れていただけるようになればと思います。

津軽の食と産業まつり実行委員会委員長 小林 裕之

## 第7回The津軽三味線2012



去る12月8日、「第7回The津軽三味線2012」を弘前市民会館に於いて開催いたしました。今年も多くの来場者で午後の部・夜の部共に満席でありました。

まずもって、弘前市・弘前商工会議所・JR東日本・観光コンベンション・物産協会ほかいろいろな業態からご支援頂いた事に、深く感謝いたします。

そしてまた、本事業にご協力頂きました実行委員・事務局に対し、ご協力ほんとうにありがとう御座いました。

実行委員会を組織し、多方面からの支援も頂きながら、基盤となった「津軽あどの祭り」から数えると、12年越しの事業でありました。振り返ると、数々の失態や事故が今でも鮮明に思い出されます。が、皆さんの努力と団結力でここまで出来たと言う事は、紛れも無い事実であります。私の想いですが、祭りごとは、作り上げ育てていくものと考えています。年々、スケールアップし、すべての方々が、楽しくそして感動覚え良い思い出にして頂ければと思います。

最後に、記憶して頂きたいことは、津軽三味線と言う楽器は、単なる三味線とは違い、「津軽」と言う、地方名が付いている事です。以前からこの事に対し必要以上に周知してまいりましたが、今一度、この事実に特化し祭りと地域をうまくコラボさせていく事がこれからの更なる課題であります。どうか今後も末永くこの祭りを愛して頂ければ幸いです。

The津軽三味線実行委員会委員長 佐藤 浩之



今年度、ご卒業の皆さま方、長い間本当にお疲れ様でした。

先輩方から受け継いだYEG魂と「絆」を肝に命じ、地域社会の経済的発展と豊かで住みよい郷土づくりを目指して尽力して参りますので、今後とも我々弘前YEGへのご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

いままで本当にありがとうございました。

【掲載は五十音順】

# ご卒業おめでとうございます



佐藤 浩之

入会日：平成元年9月



千葉 勝徳

入会日：平成22年4月



永井 明雄

入会日：平成9年12月



西村 あきら

入会日：平成19年12月



芳賀 弘次

入会日：平成21年4月



門前 孝治

入会日：平成15年1月



横山 光生

入会日：平成17年10月

## 大人気の「なめこ」製作

### 第37回弘前城雪燈籠まつり

2月6日弘前公園レクリエーション広場前にて、第37回弘前城雪燈籠まつりの雪像製作を致しました。製作するキャラクターを選ぶのが毎回悩みますが今回はすんなり決まりました。それは子供たちに大人気のスマホ等のゲームアプリ「おさわり探偵なめこ栽培キット」の「なめこ」です。

当日は天気も良く20人以上のメンバーが童心に戻り完成に向け協力し作業をしました。作業前日の暖気の影響か削る雪柱が柔らかく昨年よりも全体の作業が捗り、仕上げの部分に十分な時間を使えて客感的に見ても完成度が高いものとなりました。

雪燈籠まつりの会期中には子供達の列が途切れない程の人気になっていて、父母の皆様が笑顔でお子さんを前に立たせ写真を撮っているのがとても印象的で感動しました。

年々この大型雪像の数が減ってきていますが、来年度も弘前YEGでは雪像製作をして地域の皆様喜んで頂ける様にメンバー全体で協力し頑張ってまいります。



地域振興委員会委員長 中林 將浩